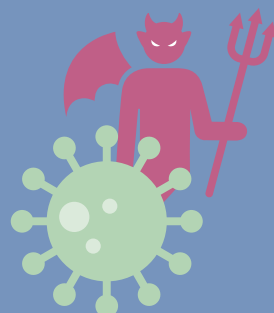


ポストコロナの 感染症



コロナ禍で得たもの、失われたもの

もう何年経ったのか？ 1波からコロナの最前線を率いてきた。何度も繰り返す波。そして診療のみならず、パンデミックに対する公衆衛生上の必要性から、頼まれれば各種メディアの取材対応をしてきた。一部の国民からは「儲かっていいですね？」と揶揄される。新聞取材など掲載紙が送られてくるだけなのに。

コロナ禍で、われわれが得ている経験はきっと貴重なものであると信じるしかない。診療のオンライン化、学会や講演会も会議もオンライン参加が可能となった。医療従事者はもちろん、国民の感染症対策に対する興味や知識も大きく向上した。

しかし、失われたものもある。多くの犠牲者に始まり、ひいては社会経済活動の停滞も大きかっただろう。感染症診療という視点でいえば、コロナ以外の感染症の診療経験や情報更新が最たるものにあげられるのではないだろうか。私も例外にあらず、日々更新されるCOVID-19の診療や情報更新で、ほかの感染症の診療と情報更新が停滞している。数年で、有効なワクチンや治療薬が登場し、それらのエビデンスはさらに更新している。かつてのHIVを超えるスピードでコロナ医療は目まぐるしく進歩しているから、これについていくだけでもかなりの努力が必要なのだ。

そこで、今回の特集のようなものがあるとありがたいと考えていた。コロナ禍で果たしてほかの感染症はどのようにアップデートされているのであろうか。またCOVID-19とほかの感染症疾患はどのようにかわり変化しているのだろうか。さらにはコロナに隠れて新興、再興している感染症は何であらうかなどである。

これらの視点で今回の特集を企画し、各エキスパートに執筆を依頼した。本特集がコロナ禍における感染症診療のアップデートとよいリファレンスになることを期待している。

〔編集幹事〕埼玉医科大学総合医療センター 総合診療内科

岡 秀昭